

# 排出削減実績報告書

---

排出削減事業の名称：

長野店における

売場空調機器更新による省エネ事業

排出削減事業者名：日本トイザラス株式会社

排出削減事業共同実施者名：環境経済株式会社

その他関連事業者名：

## 1 排出削減事業者の情報

排出削減事業者	
会社名	日本トイザラス株式会社
排出削減事業を実施する事業所	
事業所名	トイザラス・ベビーザラス長野店
住所	長野県長野市高田 1174 ヤングファラオ 2F
排出削減事業共同実施者（J-クレジット保有予定者）	
排出削減事業共同実施者名	環境経済株式会社
その他関連事業者	
関連事業者名	

## 2 排出削減活動の概要

### 2.1 排出削減事業の名称

長野店における売場空調機器更新による省エネ事業

### 2.2 排出削減事業の目的

売場内の空調機器を機器効率の良い機器へ更新し省エネルギー並びに CO2 排出削減を図る。

### 2.3 温室効果ガス排出量の削減方法

既存吸収式冷温水発生機を高効率の吸収式冷温水発生機に更新することにより、機器効率を改善してエネルギー消費量を削減、CO2 排出量を削減する。

### 2.4 J-クレジット認証要件の確認

排出削減量は承認排出削減計画に従って当該計画を実施した結果生じたものか	■はい
排出削減量は承認排出削減方法論及び承認排出削減事業計画に従って算定されているか	■はい

### 2.5 承認排出削減事業計画からの変更項目

代表者名の変更

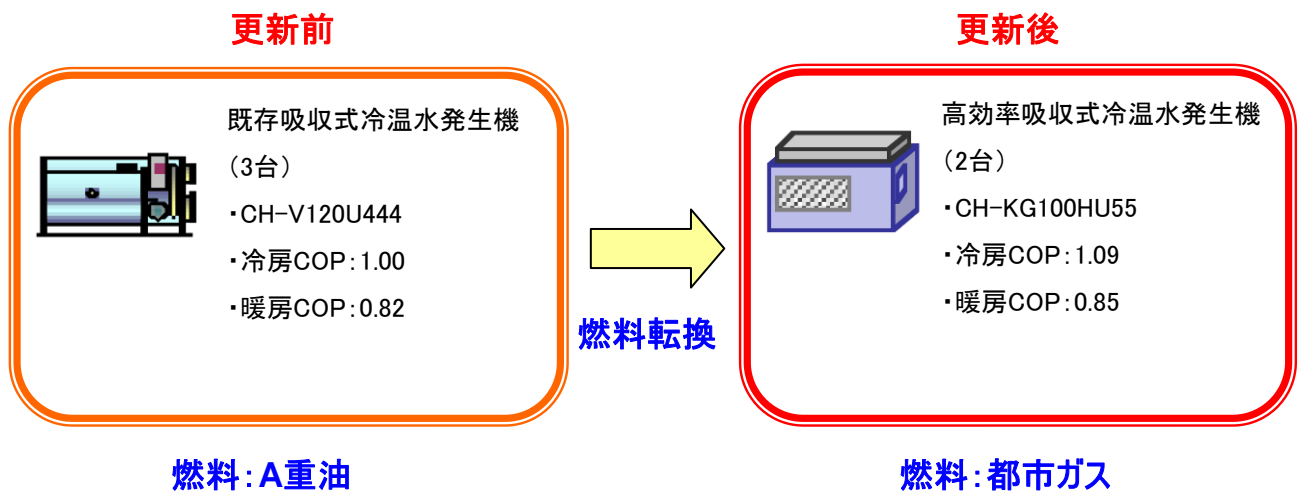


図1 設備概要図

### 3 排出削減活動期間

#### 3.1 プロジェクト開始日

2010年11月1日

#### 3.2 モニタリング対象期間

(本報告における実績報告期間)

2013年4月1日 ～ 2016年12月31日

### 4 温室効果ガス排出削減量

#### 4.1 採用した排出削減方法論の情報

方法論番号	方法論名称
004	空調設備の更新

#### 4.2 活動量

##### 4.2.1 活動量・原単位

対象	活動量	原単位
空調設備 (長野店)	営業時間 (時間)	事業実施前燃料使用量 (千 Nm <sup>3</sup> /年)
		営業時間 (h)

##### 4.2.2 活動量の採用根拠

以下の理由により、「営業時間」を活動量として採用した。

- ・設備更新の前後で売場面積の広さに変更がなく、空調設備における燃料消費量に最も大きく影響

する要因は営業時間と判断できる

- ・営業時間を計測可能である

#### 4.3 事業の範囲（バウンダリー）

本事業の範囲は、更新される空調設備及び当該空調設備により空調が行われる範囲（長野店の売場）である。

5 モニタリング対象指標

項目	定義	単位	実績値	モニタリング方法 根拠資料	(モニタリング方法に 更なる場合) 変更理由
M-1	事業実施前の燃料使用量	k $\ell$ /年	冷房 43.6 暖房 23.3	請求書	
M-2	事業実施前燃料の単位発熱量	GJ/k $\ell$	(2013 年度) 38.9 (2014 年度以降) 38.9	デフォルト値	
M-3	事業実施後燃料の単位発熱量	GJ/千 Nm $^3$	(2013 年度) 44.0 (2014 年度以降) 46.4	デフォルト値	
M-4	事業実施前の活動量 (冷房期) 事業実施前の活動量 (暖房期)	h/年	冷房 2140 暖房 1510	計測	
M-5	事業実施後の活動量 (冷房期) 事業実施後の活動量 (暖房期)	h/年	冷房 (2013 年度) 2140 (2014 年度) 2140 (2015 年度) 2140 (2016 年度) 2140 暖房 (2013 年度) 1520 (2014 年度) 1508 (2015 年度) 1524 (2016 年度) 616	計測	
M-6	燃料の単位発熱量あたりの二酸化炭素排出係数	t-CO $_2$ /GJ	A 重油 (2013 年度) 0.0708 (2014 年度以降) 0.0708 都市ガス	デフォルト値	

			(2013 年度) 0.0517 (2014 年度以降) 0.0517		
M-7	事業実施後の燃料使用量	千 Nm <sup>3</sup> /年	冷房 (2013 年度) 25.1 (2014 年度) 17.6 (2015 年度) 20.1 (2016 年度) 20.1 暖房 (2013 年度) 17.5 (2014 年度) 14.5 (2015 年度) 14.1 (2016 年度) 4.1	計測	

## 7 排出削減量の計算

### 7.1 事業実施後排出量

	活動量 [h/年]	使用量 [千 Nm <sup>3</sup> ]	単位発熱量 [GJ/千 Nm <sup>3</sup> ]	排出係数 [t-CO <sub>2</sub> /GJ]	CO <sub>2</sub> 排出量 [t-CO <sub>2</sub> ]
冷房 (2013 年度)	2,140	25.1	44.0	0.0517	57.1
冷房 (2014 年度)	2,140	17.6	46.4	0.0517	42.2
冷房 (2015 年度)	2,140	20.1	46.4	0.0517	48.2
冷房 (2016 年度)	2,140	20.1	46.4	0.0517	48.2
暖房 (2013 年度)	1,520	17.5	44.0	0.0517	39.8
暖房 (2014 年度)	1,508	14.5	46.4	0.0517	34.8
暖房 (2015 年度)	1,524	14.1	46.4	0.0517	33.8
暖房 (2016 年度)	616	4.1	46.4	0.0517	9.8
EMPj		133.1			313.9

### 7.2 ベースライン排出量

	活動量 [h/年]	使用量 [kℓ]	単位発熱量 [GJ/kℓ]	排出係数 [t-CO <sub>2</sub> /GJ]	CO <sub>2</sub> 排出量 [t-CO <sub>2</sub> ]
冷房 (2013 年度)	2,140	43.6	38.9	0.0708	120.1
冷房 (2014 年度)	2,140	43.6	38.9	0.0708	120.1
冷房 (2015 年度)	2,140	43.6	38.9	0.0708	120.1
冷房 (2016 年度)	2,140	43.6	38.9	0.0708	120.1
暖房 (2013 年度)	1,510	23.5	38.9	0.0708	64.7
暖房 (2014 年度)	1,510	23.3	38.9	0.0708	64.2
暖房 (2015 年度)	1,510	23.5	38.9	0.0708	64.7
暖房 (2016 年度)	1,510	9.5	38.9	0.0708	26.2
EMBL		254.2			700.2

7.3 リークージ排出量 本事業によるリークージはなく、リークージ排出量は 0 である。

### 7.4 温室効果ガス排出削減量

項目	記号	
ベースライン排出量 (7.2)	<i>EMBL</i>	700.2 [t-CO <sub>2</sub> ]
事業実施後排出量 (7.1)	<i>EMPj</i>	313.9 [t-CO <sub>2</sub> ]
リークージ排出量 (7.3)	<i>LE</i>	0 [t-CO <sub>2</sub> ]
温室効果ガス排出削減量 (小数点以下切捨て)	<i>ER</i>	386 [t-CO <sub>2</sub> ]

8 省エネルギー量

原油換算		
ベースライン (①)	実績 (②)	ベースライン -実績 (①-②)
256.4	148.1	108.3

省エネ量 = 108.3 (kl)

9 再生可能エネルギー利用量

該当なし